

芸工大「統合」問題

# 統合延期・財産担保を

県と市へ申し入れ



県に申し入れる(右から)本間委員長、ゆり子県議

東北芸術工科大学を運営する学校法人東北芸術工科大学と京造形芸術大学(京都市)を運営する学校法人瓜生山学園が、8月9日に文部科学省に法人統合の申請をしました。

## 実際は吸収合併

日本共産党県委員会は6日、東北芸術工科大学の「統合」問題について、県と市に申し入れを行いました。

1992年開学の芸工大は、山形県と山形市が約200億円を拠出し建設された学校法人が運営する「公設民営」の大学です。「統合」内容は、芸工大の法人が解散し瓜生山学園の法人に吸収され、法人名を「学校法人藝術学舎」とする吸収合併となっています。市民・県民の間からは、様々な疑問や反対の声があがっています。

県と市に申し入れた内容は、「補助目的が損なわれない保証があるのかどうか」「十分な検討を行うか」「両法人の「統合は延期」し、市民・県民に対し、「十分な説明と議論の場」を設け、「統合見直し」も含めた十分な検討を行うよう両法人に申し入れる、文部科学省に対し、統合について拙速な承認をしないようはたらきかける、補



2011年9月18日  
- 9号

発行  
日本共産党県議会議員  
渡辺 ゆり子

<連絡先>  
県議会共産党執務室  
電話 023-630-3241(受付)  
自宅：山形市青田2-10-5  
電話 023-642-2365

助金でできた財産の明確な担保を得るために県・市・学校法人と新たな協定を結ぶなど検討する、の4点です。



## 県「もっと説明されるべき」

県に対しては、共産党山形県委員会の本間和也委員長とともに、後藤紀夫・学事文書課長に申し入れ書を手渡しました。後藤課長は、「市と県の

## 県議会で説明・質疑の場を 議長へ申し入れ

議長へ申し入れ



議長に申し入れるゆり子県議(右)

9日には平弘達・県議会議長に対し、「県議会において芸工大統合問題について、学校法人東北芸術工科大学の説明と、それに対する質疑の場を設けること」を申し入れました。議長は、「各会派に投げかけ、協議してもらおうようにしたい」と述べました。

補助金でつくられた大学なので、市民・県民には、大学からもっと十分に説明されるべきだ、「芸工大の運営が目的に沿ってなされていくのか、確認できる手立てを考えていかなければならない」と話しました。

## 市長「延期もあり得る」

市に対しては、共産党山形市議団とともに、市川昭男市長に申し入れ。市川市長は「市民に不安があるのであれば、統合延期もあり得ると思う」、「まずは議論を重ね、理解を深めることが必要」と答えました。また、市川市長は9日、芸工大の法人に対し、法人統合について市民に十分な説明の場を設けることを申し入れました。

## ゆり子の視点



県内で、福島第一原発事故からの避難者が、夏休みをはさんで増加しています。特に、子どもと母親が県の借入住宅などに自主避難し、二重生活をしているケースが山形市で増えているとみられています。

## つながることの大切さ

市内のある子育てサークルの方は、同じアパートに避難されてきた方に声をかけ、誘ったそうです。二重生活で心細く、不安を抱えていたお母さんは、子ども同士が手をつないでいる姿に思わず泣き出し、避難してきた気

持ちや、山形で子どもをのびのび遊ばせることができる思いを語り、また市内のお母さんたちももらい泣きし、「報道などで聞いてはいたけど、深刻さを実感した」と語っていたとのこと。ストレスをはき出せるほっと安心して話せる場を、多様な形でつくり出すことが大切だと思います。

私たちは、いまだ収束していない原発事故と放射能汚染に対して長期間たちむかっている状態にあります。国や自治体に対策を急がせることはもちろん、それぞれができる避難者支援や小さな活動を積み重ねていくとともに、未来ある子どもたちの命と健康を守るために原発をなくす運動でもつながりを広めなければと強く思ったことでした。

## 県議会9月定例会は20日開会

補正予算が内示 総額93億円

13日に議会運営委員会が開かれ、議会への予算内示も行われました。

補正予算総額は93億1800万円



余りで、大きくは景気雇用・円高対策(17億3100万円)、エネルギー政策推進の

ための緊急の取り組み(1億8000万円)、東日本大震災への対応(26億6500万円)などとなっています。

その他、地域医療再生臨時特例基金への追加積立(48億円、鶴岡病院改築などへ充当)があります。